

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 16 日現在

機関番号：24201
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2008～2011
 課題番号：20390552
 研究課題名（和文）インターネットテレビ電話を用いたリンパ浮腫セルフケア支援システムの構築
 研究課題名（英文）Design of a support system for self-care of lymphedema using an web video phone
 研究代表者
 奥津 文子（OKUTSU AYAKO）
 滋賀県立大学・人間看護学部・教授
 研究者番号：10314270

研究分野：医師薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：リンパ浮腫、セルフケア、映像、支援システム

1. 研究計画の概要

(1) リンパ浮腫セルフケア・セルフケア支援の現状を調査し、その結果から支援マニュアルを作成する。

(2) インターネットテレビ電話を用いたリンパ浮腫セルフケア支援システムを構築する

2. 研究の進捗状況

(1) 2008～2009年度にリンパ浮腫セルフケアおよびセルフケア支援の現状について実態調査を行い以下の結果を得た。

①ケアを継続的に実施できている患者は非常に少ない

②セルフケアが継続できている患者は継続できていない患者に比べ有意に、リンパ浮腫ケア専門家の支援を受けている

③リンパ浮腫ケア専門家のケアを受けていない患者は受けている患者に比べ有意に、セルフケアについて否定的イメージを持っている

④リンパ浮腫を持つ患者の多くは、セルフケアを行う中で細かな疑問がわいてもタイムリーに尋ねることができないため勝手な判断で処理してしまっていたり、皮膚の傷・発疹・乾燥等に不安を抱きつつも安易に対処している
 これらの結果を踏まえ、インターネットテレビ電話を活用したセルフケア支援マニュアルを作成した。

(2) 2009年～2010年度にかけて、支援マニュアルに沿ったプレテストを3名に実施したが、その後インターネットテレビ電話を使用できる協力者が予想外に得られないことが発覚。携帯電話の画像送信機能を活用した支援に方向転換し、支援を開始している。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

2010年初期の段階でインターネットテレビ電話を使用できる協力者が予想外に得られないことが発覚。急ぎ再度倫理審査を受けた上で、AU

に協力を依頼し、携帯電話の画像送信機能を活用した支援に方向転換した。現在、協力者数は着実に増加し、携帯電話を活用したセルフケア支援を展開。協力者からは良好な評価を得ている。インターネットテレビ電話に比べ、画像鮮明度は劣るものの、携帯電話の簡便性・利便性は非常に高く、携帯電話の活用に向けたことは、むしろ効果的であった。

4. 今後の研究の推進方策

2011年度は、携帯電話の画像機能を活用し、セルフケア支援マニュアルに沿って支援を展開。支援システムの評価にあたっては、インビザン・超音波エコー・心理尺度等の量的にデータに加え、協力者の語りより質的データも収集し、分析する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

奥津文子; リンパ浮腫ケアの現状と問題点, 京都市立紀要, 2009

〔学会発表〕(計3件)

奥津文子: リンパ浮腫のセルフケア実施状況に影響する要因の検討, 日本医療リンパドレナージ協会学術大会, 2008

奥津文子: リンパ浮腫セルフケアと専門家支援との関連性, 日本看護・社会・政策学会 第9回学術大会, 2010

Ayako Okutsu: The Relationships between Self-Care for Lymphedema and Professional Support, the Pacific Institute of Nursing Advancing Practice, Education, & Research Conference, 2010

〔図書〕(計1件)

江川隆子, 奥津文子 他: これなら使える看護介入, 医学書院, 2009